

(様式2)

管内1酪農場における牛伝染性リンパ腫抵抗性遺伝
子の保因と感染状況：飯田家保 坂本英優

平成30年～令和5年にかけて管内1酪農場のホルスタ
イン種161頭の牛伝染性リンパ腫BoLA-DRB3（遺伝子
型）を解析。抵抗性40頭、感受性51頭、非抵抗性・
非感受性70頭で、抵抗性は3種、感受性は2種の遺伝
子を確認。ECの鍵判定による持続性リンパ球増多症
（PL）牛は抵抗性9頭、感受性21頭。血中プロウイルス
量（ウイルス量）が10000copies/100ngDNA以
上を示した高リスク牛は抵抗性6頭、感受性32頭。PL
及び高リスク牛は感受性牛に多い一方、抵抗性牛にも
存在。また、令和4年度6カ月齢以下子牛28頭中陰性
27頭、うち16頭の母親が高リスク牛だったが初乳加
温の効果と推察。防虫ネット設置や超高リスク牛の優
先淘汰等を実施すると、令和元年12月から令和5年
10月にかけて農場陽性率は82%から62%、陽性牛にお
ける高リスク牛割合は26%から13%に減少。当該農場
はフリーストール、夏季育成牛預託で水平感染対策が
困難だが、ウイルス量等の継続調査による高リスク牛
把握は清浄化対策の一助として有効と推察。